

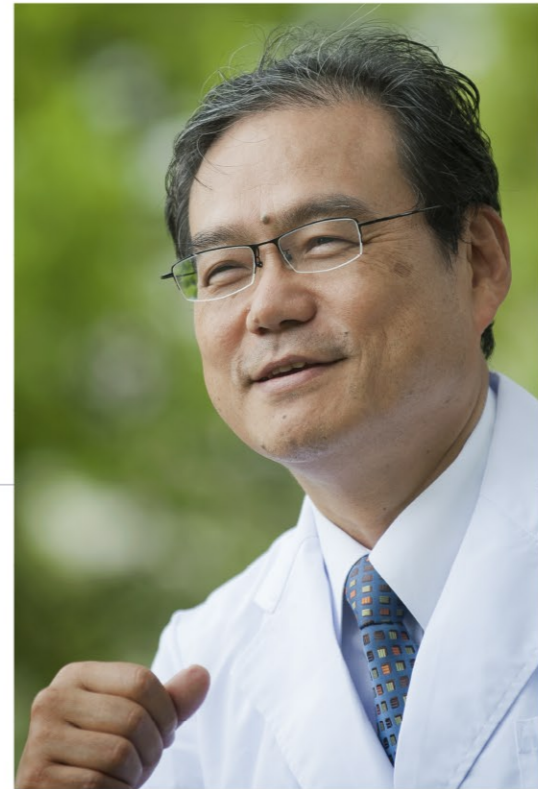
熱帯病・新興感染症制御 グローバルリーダー 育成プログラム

世界で活躍するリーダーを、広く産官学が協力して養成しようという文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」。日本の大学院改革に先鞭をつけるものとして、平成二十三年度から動き出し、二十四年度には全国の国公私立大学から二四件の申請がありました。採択されたのは二十四プログラム。長崎大学の「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」もその一つです。今年度から第一期生への講義が始まっており、後期の学生募集もスタートしました。プログラムのリーダーで熱帯医学研究所長の森田公一教授にお話を聞きました。

「長年の強みである熱帯病や感染症の分野で、世界の現場で活躍するリーダーを育てるプログラムです。確かに、これまで国際機関などでリーダーとなって活躍する日本人は少なく、企業からの育成の要請もありました。そこで大学院医歯薬学総合研究科が中心と

世界が求める グローバルリーダー その養成プログラムが 動き出した！

Interview



Morita Kouichi
森田公一 教授

なって学部横断的な教員団がカリキュラムを組んでいます」。

十五名の定員に四十一名の先生がた、少数精鋭を育てるしくみなんです。しかも講義はすべて英語とか。

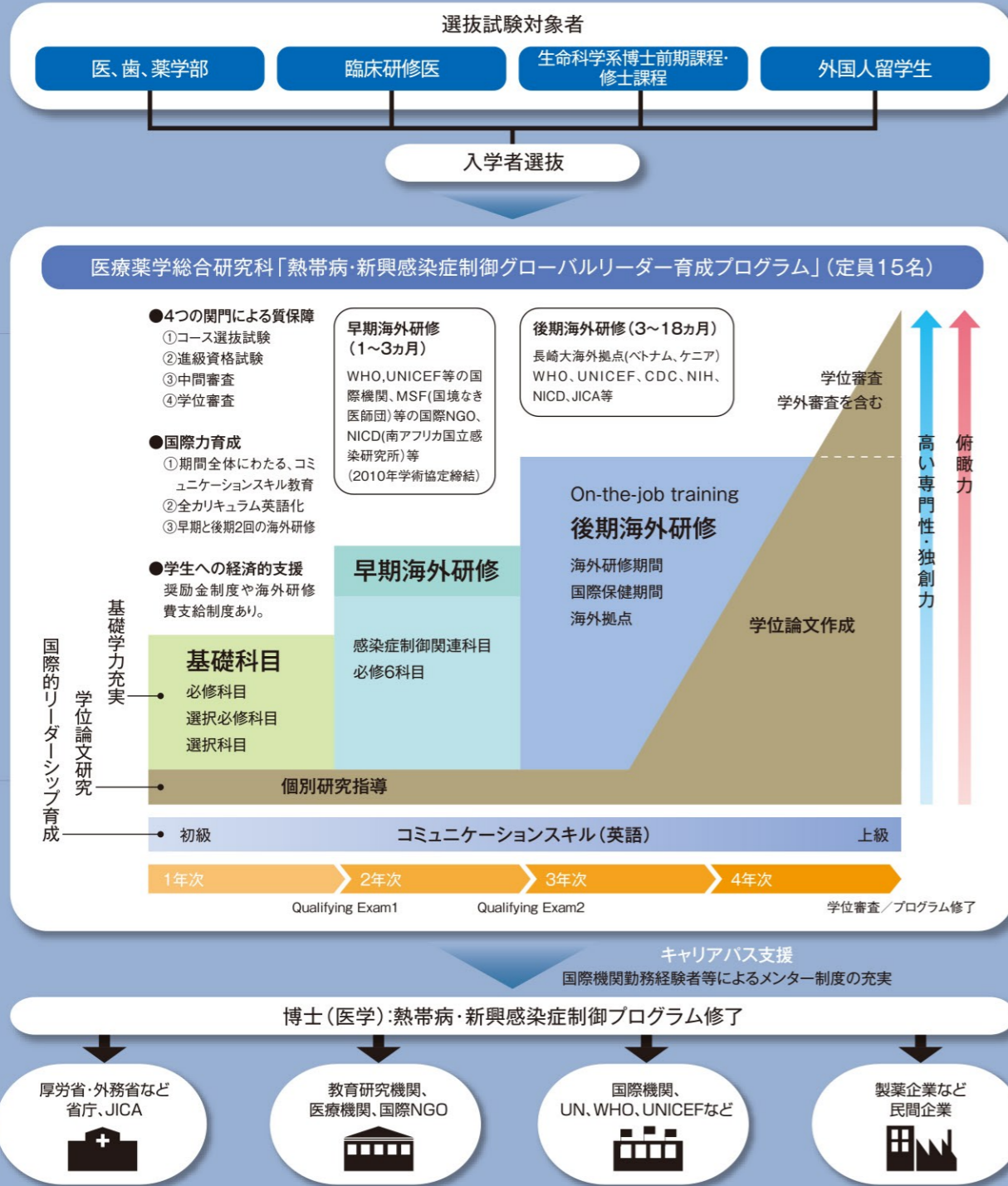
「はい。熱帯医学修士課程はすでに五年前から英語化しているのでスムーズ

でした。カリキュラムは熱帯病や感染症だけでなく、四年間の実践的コミュニケーションスキル教育も導入しました。国際機関や会議などで、自分の意見を発信できる、また、相手を説得できる力を育てています」。

それは、通常の英語教育とは違うん

リーディングプログラムのコーディネーター。WHO西太平洋地域事務局感染症対策課長、WHO指定研究協力センター長（熱帯新興ウイルス感染症）などを歴任。二〇一三年四月より熱帯医学研究所所長。医学博士。

育成プログラムカリキュラム



平成25年10月入学(8月募集・進学者選考)

- 出願手続期間・受付時間
7月22日(月)から7月26日(金)17時まで(必着)
- 出書書類提出先
長崎大学医歯薬学総合研究科学務課大学院係
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号
- 試験日時
8月21日(水)10:00~ 学力試験I、学力試験II(小論文、面接)
- 問い合わせ先
医歯薬学総合研究科学務課大学院係(リーディングプログラム担当)
TEL.095-819-7161 メール◎lead_jimu@ml.nagasaki-u.ac.jp
- ホームページ http://www.tecd.prj.nagasaki-u.ac.jp/

WHOなどの経験から、ジェネラリスト的な広範囲の知識も必要だけれど、専門性のある深い知識が活かせることも学びました。また「こういう病気がある、困っている人々がいる」という現場を見ることは、使命感やモチベーションを喚起します。試験管の中のことと世界につながる実感というか。国際機関勤務経験者などによるメンター制度など、キャリアパス支援も充実させます。最終的にはUNICEFやWHOなどの国際機関や、厚労省や外務省といった省庁やJICAなどで活躍する人材を育てていきたいですね」。

専門知識と現場経験の両輪を備えたグローバルなリーダー、まさに世界が必要としている人材を、長崎大学が輩出していく——おおいに期待したいですね。

「このプログラムは、学生への経済的な支援が特長の一つでもあります。奨励金制度、また海外研修にかかる費用を支給する制度も新設しました」。

そうなればお金の心配をしないで学業に専念できます」。

「海外の国際機関での研修を通し『ああ、こんな風になっているんだ』と、現場で立体的に学べますよ。私自身も

「例えば疾病対策に特化した用語や特別な単語、この世界独特の英語があります。これまではそういった必要なボキャブラリーは独学でしか得られませんでした。また国際会議では、英語を母国語としない人々の英語も聞き取れなければ仕事ができない。そこで外務省や世界保健機構(WHO)、国際協力機構(JICA)、国際NGOでの勤務経験のある教員を配置し、討論やディベートなどのトレーニングを重ねていきます。もちろん海外留学も早期(二、三ヵ月)、後期(三、四ヵ月)と組み込まれています」。

しっかりと海外で研修するんですね。でも長期留学となると費用負担も大変ではないでしょうか。